



アンドリュー・スプリング

グリーンアジア国際リーダー教育センター
助教 博士(理学)

私、アンドリュー・スプリングは、1983年10月、イングランドのヨークシャーのイースト・ライディング、ビヴァリー(Beverley)生まれです。高校からカレッジの間、化学に対して強い関心を抱くようになり、2002年、生まれ故郷東ヨークシャーのハル大学で4年間の修士課程に入りました。ここでは、ステーブ・J・アーチボルト(Steve J. Archibald)博士の指導の下で、化学修士課程における研究を行い、2006年に最優秀学位を取得して修了しました。本課程における研究プロジェクトは、エイズウイルス阻害剤として用いられる蛍光性タグを有するAMD3100の合成と同定に関わるものでした。その後、さらに博士課程で学ぶことを決断し、幾つかの大学の中から、2006年、マンチェスター大学へと進みました。ここでは、マイケル・L・ターナー教授の下で研究を行い、2010年に博士課程を修了しました。博士論文のタイトルは、「マイクロ波照射で進行する開環メタセシス重合によるポリパラフェニレンビニレン合成」というものです。

また、海外旅行や調査に常に興味を持っていることもあって、イングランドを離れ、2010年にアメリカ・ゲインズビルのフロリダ大学でポस्टドクター研究職を得て、ジョン・R・レイノルズ(John R. Reynolds)教授の下で研究を行ってきました。ここでは、カーボンナノチューブ分散のための新繊維材の開発に従事していました。そして、日本における研究職を求め、2011年、九州大学に移り、非線形光学用途の高分子材料の研究を行っている横山研究室に加わりました。さらに、2013年にグリーンアジア国際リーダー教育センターに着任することになりました。この間、2012年には結婚し、現在、春日地区に在住しています。また、時間のある時には、ジムに通ったり、小説や歴史書を読んだりする他、イギリスや日本の城、美術館、教会や神社を散策するなどして過ごしています。

以上、簡単な自己紹介となります。今後、どうぞ宜しくお願いします。

Andrew was born in a small historic town called Beverley in the East Riding of Yorkshire, England on 23rd October 1983. After developing a keen interest in Chemistry during Secondary School and College, he embarked on a 4 year Master of Chemistry course in 2002 at the University of Hull in his native East Yorkshire. Whilst there he obtained a 1st class honours degree, graduating in 2006 and his MChem research project was conducted under the supervision of Dr Steve J. Archibald. This project involved the synthesis and characterisation of fluorescent tagged AMD3100 derivatives for use as HIV virus inhibitors. Upon considering the merits of a career in industry or academia, Andrew decided to continue his study to PhD level. After considering numerous potential institutions around England, he embarked upon this study at the University of Manchester in 2006 under the supervision of Professor Michael L. Turner, finally graduating in 2010. The title of his PhD dissertation was "The synthesis of poly(phenylenevinylene)s (PPVs) via microwave assisted ring opening metathesis polymerisation."

Always enthusiastic about international travel and exploration, Andrew then decided to leave England and took a postdoctoral research position in 2010 at the University of Florida in Gainesville, USA, working alongside Professor John R. Reynolds. Whilst there he helped develop new polymeric materials for the dispersal of carbon nanotubes. For personal reasons, Andrew then decided to look for a research position in Japan. Finally he moved to Kyushu University, Fukuoka in 2011 and joined the Yokoyama research group where he is currently active in researching polymeric materials for use in non-linear optics. In 2012 Andrew was married and currently lives in the Kasuga area. In 2013 Andrew also joined the Green Asia team.

In his leisure time, Andrew enjoys attending a local gym, reading novels and historical books, cooking and exploring the various castles, galleries, palaces, churches and shrines in Japan and England.



渡邊 智明

グリーンアジア国際リーダー教育センター
助教 修士(法学)

平成25年3月付けで、九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター助教に就任致しました渡邊智明です。

私はこれまで、九州大学法学府修士課程、博士課程において、政治学、国際政治学を学んできました。その後、九州大学やその他の大学で、政治学、環境問題についての演習、講義といった形で教育に携わってきました。

私の専門とする政治学は、異なる価値や利害の対立をどのように調整していくのかという過程に焦点を当てる学問です。この観点からすれば、環境政策は、被害者、市民、政治家、官僚、利益団体そして国家などの異なる立場の人々の利害や価値観を踏まえて形成されると考えられるのです。科学的知見に基づく環境リスク評価過程とは異なるものですが、環境問題を考える上で、この「現実」を否定することもできないと思います。

私は、有害廃棄物の越境移動に関するバーゼル条約の展開過程を研究の具体的なテーマとしています。バーゼル条約は、先進国で環境規制が強化され処分コストが増大する中で、途上国への不法投棄が相次いだことを受けて1989年に成立した国際条約です。しかし、この形成過程では、有害廃棄物規制を行う「環境」規範と、規制の影響を受ける鉄スクラップなどの再生資源の自由取引を擁護する「貿易」という2つ規範が対立に彩られたものでした。私は、この対立する規範がいかにかに調整されるのかという視角を設定し、その成否に関わる要因を考察してきました。

また、現在、国際社会では、有害物質を使用する製品の環境リスクを国際的な拡散を減らすために、生産過程に遡ったリスク管理を求めた「拡大生産者責任」という政策が議論されていますが、私の研究もこの理念を具体化する環境標準規格の国際ルール形成をめぐる各国の対応の比較検討へと進んでいます。

当プログラムにおいて、私は、「社会システム学Ⅱ」というアジア各国の政治制度や経済システムの観点から環境問題を考える講義を担当する予定です。文化的・経済的な多様性に富むアジア諸国を比較しながら、学生諸君と一緒に環境問題を考え、議論していきたいと思っています。また講義にとどまらず、多様なバックグラウンドを持つ諸先生、学生諸君との交流を通じて、私自身も自らの能力を高めることができたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。